



校長室だより

第 1 3 号
(通算第66号)
令和4年6月22日(水)
大崎市立沼部小学校
校長 吉田 浩之

心をこめてあいさつする子ども

昨日、6月21日は夏至でした。夏至の頃の季節の言葉として、「晴耕雨読」があります。図書室にある【チャレンジ小学国語辞典】には「晴れた日には、田畑を耕し、雨の日には家にいて本を読むこと。心静かで自由な生活を楽しむようすをいう。」と書いてありました。休日にはあえて出かけず、家で音楽や読書を楽しむ、という晴耕雨読を試してみると、意外なほどリラックスできて、心身のメンテナンスによさそうです。

さて、沼部プランでお示したように、今年度本校の目指す児童像を「ぬまつこ」の頭文字をとって、『ぬくもりのある子ども』、『まなびつづける子ども』、『よくたくましい子ども』、『こころをこめてあいさつする子ども』の4点を掲げています。学校経営方針の中に、大切にしたいキーワードとして、『あいさつ』を掲げています。入学式の中でも1年生に「自分から進んで挨拶をしましょう。自分から挨拶すると、すてきな子供だなとみんなが思ってくれますよ。」と話をしました。今回は挨拶について考えてみたいと思います。繰り返しになりますが、昨年と同じ内容を掲載します。(伝えるときは、繰り返しが大切なのだそうです。)

毎朝、昇降口で子供たちと挨拶を交わしています。子供たちの元気な挨拶を聴くと、私も「今日も頑張ろう。」という気持ちになります。特に1年生の挨拶がすばらしいなあと感じています。入学式で話したことをしっかり守って、自分から挨拶してくれる子供が多いのです。うれしくなります。



挨拶するときには大事なことは

- 自分からあいさつをする
- 相手に伝わるようにあいさつをする
- 誰にでもあいさつをする

子供たちにも伝えたいことなので、ここでの「あいさつ」はひらがな表記にしています。

ことだと思えます。

私の家の近所の子供たちが、休みの日などに会うと、元気よく挨拶してくれます。進んで挨拶をしてくれる子供を見ると、「めんこいなあ」と思うのは私だけでしょうか。「めんこい」と思うと地域の方々は、子供たちに声を掛けてくれるなど、温かく見守ってくれます。地域の皆様に育ててもらってることにもなります。

あるテレビ番組で、こんなことが紹介されていました。誘拐されそうになったお子さんが、とっさの行動で難を逃れた、ということです。誘拐されそうになったお子さんが、「誘拐されそうです。」と言えず、近くにいる大人に必死になって挨拶したそうです。その姿を見た誘拐犯は、「この子は、この近辺に知っている大人が多い。」と思い、顔が知られるとまずいと、逃げてしまったそうです。

不審者の出没などの事案も発生しているため、誰にでも気軽に挨拶すること自体難しい時代であることも事実です。それでも、挨拶は心と心をつなぐ大切な気持ちの表れです。心を込めた挨拶の輪がさらに広がりますように。